



クローズアップ
CLOSE UP

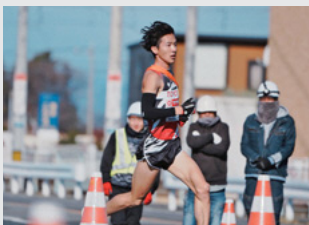
縁起物求めてにぎわう

1月9日、初市まつりを開催しました。役目を終えた古だるまを燃やして供養するお焚き上げや、ご神体を仮宮に移す渡御の儀を実施。無病息災や商売繁盛を願いました。本町通りには、だるまや熊手などの縁起物を売る露店が並び、多くの人でにぎわいました。



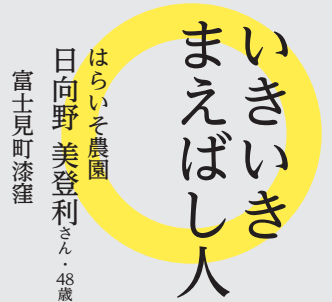
新たな門出20歳の思い

1月7日に、はたちのつどいを日本トータースタジアム前橋で開催しました。楽歩堂前橋公園では地元企業によるフォトスポットなども設置。参加者は地元企業との交流や、久しぶりに再会した友人たちと思い出話を花を咲かせたり写真を撮ったりしました。



上州路で元旦駅伝決戦

1月1日、元旦恒例のニューイヤースタジアム前橋駅伝が群馬県庁を発着点に開催。高崎市役所から本市を經由し、伊勢崎市役所までを結ぶ2区では各チームの日本人エースが駆け抜け、沿道からは多くの声援が飛び交いました。大会はトヨタ自動車が制し、8年ぶり4回目の優勝を飾りました。



人をつなぐ前橋産のモノ作り目指す



10年程前に訪れた本市の雑貨店をきっかけに赤城山が好きになり、畑作業ができる移住先として、本市へ約2年前に移住した日向野さん。
「新しいことを始める人に対して受け入れてくれる雰囲気があり、自然も多く静かで住みやすいです」
畑では繊維植物を無農薬で栽培。種にもこだわり、極力肥料を与えず、土や雨など自然の力を利用して育てている。
「繊維植物に興味を持ったきっかけは、麻糸を手で績むワークショップ。取り組むなら植物を栽培するところからやってみよう」と思い、始めました」
昨年はリネンの原料となる亜麻と綿花を栽培。草木染めに使

用する藍なども栽培したという。「綿花は綿だけでなく、枝の部分は草木染めに使用できます。種類によって違う色が楽しめます。他の植物と掛け合わせて、新たな色を作り出すこともできます」
「自分で育てた植物から糸を紡ぎ、多くの人に届けたいです。遠い将来の目標ですが、自分の畑で育てて作った糸で、地域の人の力を借りて布を作ったり編んだりして、靴下やアームカバーなどが作れたらうれしいです」と語る。
もうすぐ迎える春は種まきの時季。自然と向き合う日向野さんの生活は続く。



産者には、米を提供してくれた生

名峰赤城は富士見地区で収穫されたひとめぼれのみで造った日本酒。地元で愛されて、今年で19周年を迎えました。今では焼酎を含めた9種類が作られています。
スタートは富士見村時代。地元農産物を使って名産品を作りたいという思いから、富士見村特産品販売組合の現会長・狩野亮一さんが発案しました。
コンセプトは、「あなたのお米がお酒になります」。米を提供してくれた生



農政課 027-898-5841



製造先である聖酒造代表の今井健夫さん(左)と狩野亮一さん(右)



富士見地区の酒店で売られている

名峰赤城の特長は、搾りたてをそのまま詰めることで生まれる発泡感。口の中で少ししゅわっとし、すっきり爽やかに飲むことができます。癖がありません。冷酒で飲みたい人にもお薦め。冷酒で飲んでみてください。
同酒は風ラインふじみ農産物直売所や狩野商店(富士見町原之郷)のほか富士見地区の酒店で販売しています。富士見地区の郷土愛が作り出した銘酒をぜひ楽しんでください。